

小林古川

秦野 秀明

越谷市内には、「河畔砂丘」の存在からかつての「利根川」本流と推測される「元荒川」が流れているが、近世の様々な「史料」や「絵図」及び現代の「空中写真」の判別や前述の「河畔砂丘」の存在などから、「元荒川」には「(仮称)袋山古川」と「(仮称)花田古川」の2カ所の旧河道がある事実が知られている。

「元荒川」の2カ所の旧河道の内で上流部に存在するのが、「(仮称)袋山古川」であり、「旧・袋山村」の大部分を、「北を凸に」取り囲むように流れ、蛇行する旧河道の上流部から中流部の東側から南側に沿って「袋山河畔砂丘」が発達している。

「元荒川」の2カ所の旧河道の内で下流部に存在するのが、「(仮称)花田古川」であり、「旧・花田村」と「旧・越ヶ谷宿」の北東部を、「北東を凸に」取り囲むように流れ、蛇行する旧河道の下流部が、「旧・小林村」を、「西を凸に」半分取り囲むように流れていた旧河道の東側に沿って「東越谷河畔砂丘」が発達している。

後者である「(仮称)花田古川」には、現代の「空中写真」の判別から、「東越谷河畔砂丘」を発達させた蛇行する旧河道の一部が2筋に分流して、「旧・小林村」の南東部を経て、「旧・増林村」の南部との境界付近で、「元荒川」へと合流していたと推測可能である。

ゆえに、この旧河道はかつての「利根川」本流と推測される「元荒川」の「分流」または「本流」と解釈し、筆者は「(仮称)小林古川」と命名し、既に各種のガイドブックや現地案内で使用している。

「(仮称)小林古川」の「2筋」の旧河道の内で、現在の「元荒川」から近い方の「1筋」は、「地理院地図(電子国土Web)」の「治水地形分類図(初版一九七六～七八年)」(注1)及び「同図(更新版二〇〇七～二二年)」(注2)においても、「元荒川」に沿って北北西から東北東へ向かって流れた旧河道として表現されている。

「(仮称)小林古川」の「2筋」の旧河道の内で、現在の「元荒川」から遠い方の「1筋」は、自然堤防がよく発達しており、「右岸側」の自然堤防には、東越谷地区の区画整理事業の竣工以前には古道が通っており、加藤幸一氏の「聞き取り調査」の結果、その古道は「旧・小林村」の香取神社の「虫追い」のルートになっていたことも判明している。

また、「左岸側」の自然堤防には、奈良・平安時代、近世の集落跡などの遺構が発掘された「越谷警察署前遺跡」(注3)があり、「(仮称)小林古川」の「2筋」の旧河道の内の「1筋」の「現役」の河道時代を比定させる材料としての可能性がある。

(注1) 「地理院地図(電子国土Web)」 「治水地形分類図(初版一九七六～七八年)」

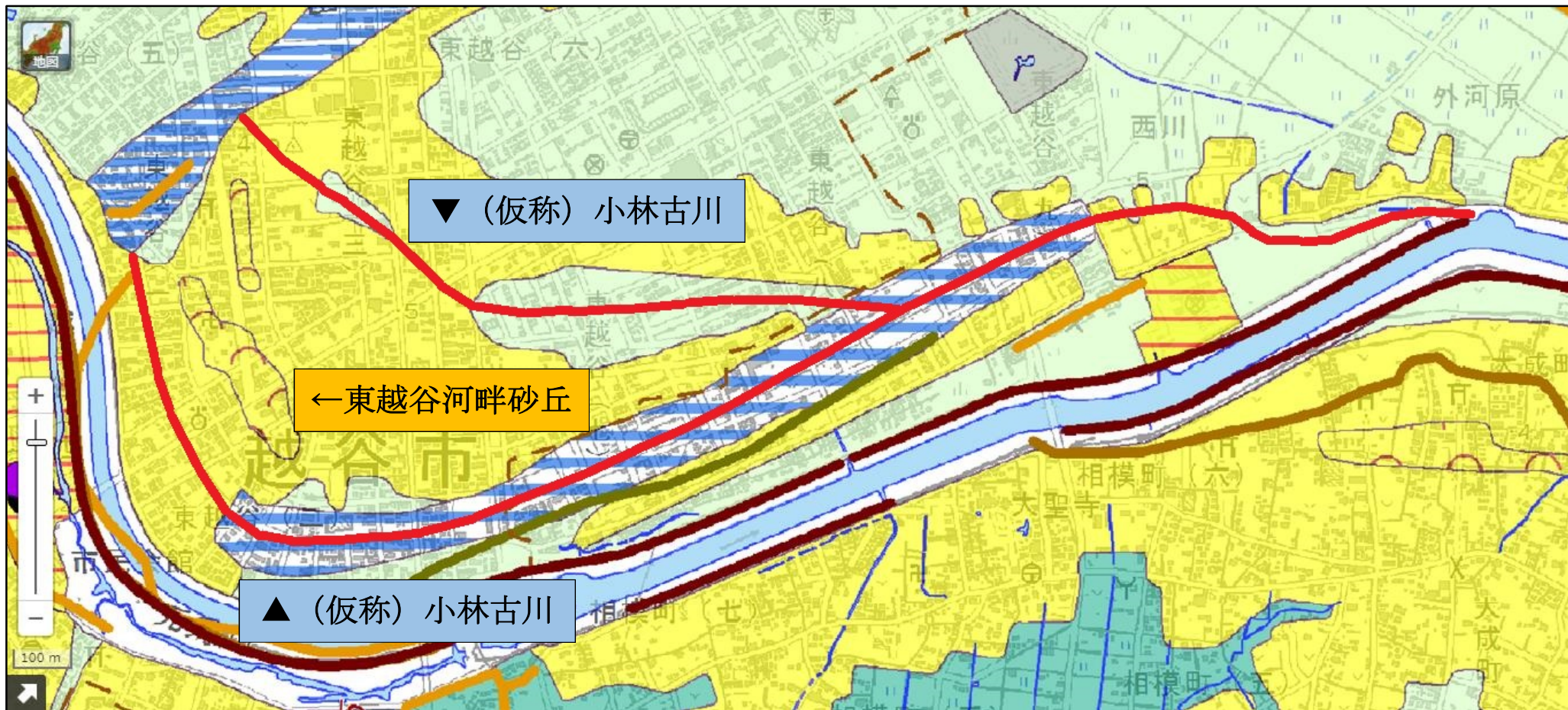
<http://maps.gsi.go.jp/#14/35.893535/139.799352/&base=std&ls=std%7C1cmfc2%7C1cmfc1&lend=00&disp=111&lcd=1cmfc1&vs=c1g1j0h0k010u0t0z0r0s0m0f1>

(注2) 「地理院地図(電子国土Web)」 「治水地形分類図(更新版二〇〇七～二二年)」

<http://maps.gsi.go.jp/#14/35.893535/139.799395/&base=std&ls=std%7C1cmfc1%7C1cmfc2&lend=00&disp=111&lcd=1cmfc2&vs=c1g1j0h0k010u0t0z0r0s0m0f1>

(注3) 「公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 ホームページ」

<https://www.saimaibun.or.jp/na/11579.htm>



「地理院地図 (電子国土 Web)」 「治水地形分類図 (更新版 2007~21 年)

<http://maps.gsi.go.jp/#14/35.893535/139.799395/&base=std&ls=std%7C1cmfc1%7C1cmfc2&blend=00&disp=111&lcd=1cmfc2&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>

より加筆して引用